

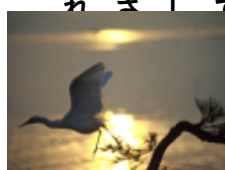
梅鶯仏教壮年

第19号
2005年
2月5日

一日いちにちを大切に

「再来年の何月何日に講演を・・・」
などといった下さる方が
時々あるものだから
「もしもいのちを
いただいておりますら・・・」と
五年前おそろおそろ
「五年連用日記」を買って
お約束を記入させてもらってきた
その五年をとうとう
終わらせていただくことができた
「ようこそ、ようこそ！」と
謝せずにはおれない
ところが過日書店で
新しい「五年連用日記」を見つけた
手を出そうとして思わず引つめた
ご恩に馴れつけあがり
まだこれから五年を考えると
思いあがった私がはずかしかった
そんな私にまたこうして
全人類がまだ誰も

生きさせてもらったことのない
まっさらな年を
恵んでいただく
しかも妻もいっしょに
もったいない
粗末に生きてはバチがあたる
どうかよろしく
お導きをお願いいたします
東井義雄



定期総会開催

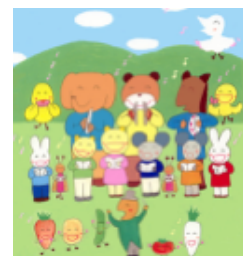
3月19日

午後6時

(土)

仏教讃歌を歌おう！

仏教音楽はあま
り一般に知られて
いませんが、とて
も素敵な歌がたく
さんあります。
もともと仏教と
音楽・芸能との結びつきは深く
お経にも、
「かの仏国土には、つねに天の
樂をなす・・・その声を聞くも
念じ、法を念じ
僧を念ずるの心を生ず」
とあり、音楽は法を伝えるはた
らきをするといふべられてます。
聖徳太子も音楽を積極的に普
及せられたと伝えられており、
長く日本仏教は信仰の歓びとし
て音楽に親しんできたのです。
例えば、九条武子さま作詞の、
星の夜空のうつくしさ
たれかは知るや天のなぞ
無数のひとみ輝けば
歓喜になごむわがこころ
(聖)
夜などはキリスト教の「聖
夜(きよしこの夜)」に勝ると
も劣らない静寂な歌です。
前回の例会より「仏教讃歌」
を歌い始めました。
共に楽しく歌っていきたく
思います。



題材法話

＊前号からのつづき

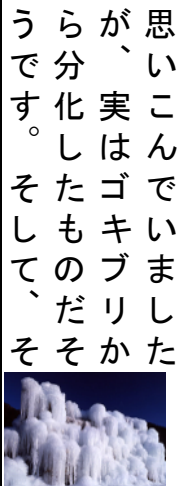
○シロアリを色眼鏡で見ていた私の自我

20数年前、本堂も庫裡もひどくシロアリに食い荒らされたところがあり、大変な苦勞をいたしました。それ以来私は、シロアリは迷惑な生き物だと思い続けてきました。

ところが先日、大乘という冊子の中で、シロアリの「生き様」を知り、シロアリを色眼鏡で見ていた私の自我が「ガツン」と頭を打たれました。

○シロアリは意外な生き物でした

まず、シロアリは「蟻（あり）」の一種であると思いきや、実はゴキブリから分化したものだそうです。そして、そ



のシロアリがこの地球上に現れたのは、実に三億年ほど前だそうで、人類が地上に現れたのが数百万年前といわれています。人間よりもはるかに先輩の生き物なのであります。このシロアリの働きは、シロアリの本来の働きは、シロアリの担い手だったのです。シロアリの多くは森の中の、ほかに新しい実や若い樹木を食べるのではありません。朽ち果てた木や、木としては既に生命を終えた倒木などを食べながら、それをせっせと分解してまた土に返しているのです。

いわば環境を守り再生させるという、生態系の中できわめて重要な役割を果たしているというところなのです。

○人間こそが害虫？

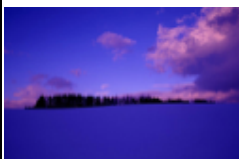
ですからシロアリからすれば、家の柱や床は、すでに命を



終えた単なる朽ち木であつて、早く自然の大地に返すべきものとして、本来の大きな働きをしています。事な木を切り、家を建て、大切な人間は自然環境の破壊者であり、一方、土壌を肥やして豊かな山林を再生させ、自然環境の維持に力を尽くしているシロアリは、地球上の大先輩でもある嫌いな害虫といつても毛が、実は大自然の流からいって、間違ひなく害虫なのではないか。

○知恵の光に照らされて

「すべてをのちが共にかき合ひながら生きている命一つとて、本来的に無駄な命はない」と聞かされながら、いつしか



どこかで、自分の都合のよいように、

「良い、悪い」

「役に立つ、立たない」

「好きだ、嫌いだ」

と、自己中心的なものを見方をしてしまっている。果ては争いまでが起きてくるのです。

そんな危なっかしい生き様のこの私でありながら、仏さまの知恵の光に照らされて、また少しそのことに気づかされていくのだ。

「ありがたし」「いのち尊し」の報恩生活が、念仏者の歩みであることに気づかされていくのです。

報恩講は、親鸞聖人を偲びつつ、互いにそういつたことを改めて考え、話し合うことのできる大切な機会なのです。

梅鶯仏壮報恩講 住職法話よ

鈴と、小鳥と、
みれから私、
みんなないがって、
みんない。

